

# 地中海の宝石・・若き至宝と洗練と色彩に満ちた響宴を

© Sasha Gusov OPMC

## 〈ベートーヴェン〉

ハ短調 op.37

## 〈ベルリオーズ〉

© Yoshinori Tsuru

© Dovile Sermokas

1/19(金)あさ10時より  
ABCぴあ / 兵庫県立芸術文化センター会員  
先行予約受付開始

1/21(日)あさ10時より  
各プレイガイドで  
一般発売

ABCぴあ 検索

# 地中海の宝石・ 若き至宝と洗練と色彩に満ちた饗宴を

歴史と芸術で彩られている美しいモナコ公国のオーケストラが、クラシック界を牽引する若き天才2人と兵庫県立芸術文化センターに降臨します！

2023年6月、初登場の忘れえぬ熱狂と大喝采をホールに刻み込み、バーミンガム市交響楽団を率いたマエストロ山田、今回はピアノの申し子、藤田真央と共に再び聴衆を感動の渦に巻き込むことになるでしょう。

## 山田和樹 (芸術監督兼音楽監督・指揮) Kazuki Yamada, Conductor



© Yoshinori Tsuru

2009年第51回バザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・ブラッソンの代役でバリ管弦楽団を指揮して以来、破竹の勢いで活躍の場を広げている。2012年～2018年スイス・ロマンダ管弦楽団の首席客演指揮者、2016/17シーズンからモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、2023年4月からバーミンガム市交響楽団の首席指揮者兼アーティスティックアドバイザーに就任。日本では、読売日本交響楽団首席客演指揮者、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、学生時代に創設した横浜シフォニエッタの音楽監督としても活動している。

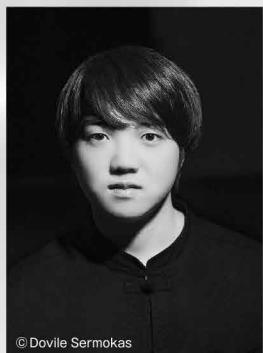
2023年はバーミンガム市交響楽団とのBBCプロムス復帰、ボストン交響楽団とのタンゲルウッド音楽祭でのデビュー、そして秋にはバーミンガム市交響楽団とのドイツ、スイスツアーを、2024年春にはヨーロッパ各地でコンサートを行う。また、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ボストン交響楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、フランス国立管弦楽団への定期的な客演、ベルリン・ドイツ交響楽団へのデビュー、その他オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、スペイン国立管弦楽団、シカゴ交響楽団との共演を予定。2023年6月にはバーミンガム市交響楽団との日本ツアーも行った。

エマニュエル・アックス、レイフ・オヴェ・アンズネス、チョ・ソンジン、イザベル・ファウスト、マルティン・ヘルムヒェン、今井信子、アルトゥール&ルーカス・ユッセン、アレクサンドル・カントロフ、エフゲニー・キーシン、マリア・ジョアン・ピリス、バイバ・スクリデ、

ファジル・サイ、アラベラ・シュタインバッハー、ジャン＝イヴ・ティボーデ、クリスチャン・ツィメルマン、フランク・ペーター・ツィンマーマンなどのソリストと共演。教育活動にも熱心で、小澤征爾スイス国際アカデミーに毎年ゲスト・アーティストとして招かれている。また、バーミンガム市交響楽団のアウトリーチ・プログラムにも力を入れている。

東京藝術大学指揮科で松尾葉子・小林研一郎の両氏に師事。出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、実行委員会代表を務めた『柴田南雄生誕100年・没後20年 記念演奏会』が平成28年(2016年)度文化庁芸術祭大賞、日本フィルハーモニー交響楽団と3年に亘り行った『山田和樹マラー・ツィクルス』が第67回(2017年)芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。2022年には、モナコ公国からシュバリエ文化功労勲章を受章。キングレコード、オクタヴィア・レコード、PENTATONE、EXTON、日本コロムビア(DENON)などから多くのCDを発表している。著述に『「超」音楽対談 オーケストラに未来はあるか』(対談・アルテスパブリッシング刊)、『「自由」の危機―息苦しさの正体』(論考集・集英社新書)などがある。本質に迫るとともにファンタジーあふれる音楽づくり、演奏家たちと一体になって奏でるサウンドは、音楽の喜びと真髄を客席と共有し熱狂の渦に巻き込む。名実ともに日本を代表する人気マエストロである。はだのふるさと大使。ベルリン在住。

## 藤田真央 (ピアノ) Mao Fujita, Piano



© Doviile Sermokas

2017年、弱冠18歳で第27回クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクール優勝。併せて「青年批評家賞」「聴衆賞」「現代曲賞」の特別賞を受賞。2019年チャイコフスキー国際コンクールで第2位を受賞し、審査員や聴衆から熱狂的に支持され世界の注目を集めた。

自然体で奏でられる、繊細かつヴィルトゥオーゾを持ち合わせた唯一無二の美しい音色が高く評価され、次々と世界の舞台に招かれる。ルツェルン音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、エディンバラ国際音楽祭、ラ・ロック＝ダントロン国際ピアノ音楽祭、ツィンタリ音楽祭など主要な音楽祭へ定期的に出演。2023年1月、カーネギー・ホールにてホール主催のソロ・リサイタルデビューを果たした。同年5月、音楽監督リッカルド・シャイー率いるミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団とのヨーロッパツアーを成功させる。同年7月、ウィグモア・ホールにて5日間に渡るモーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲ツィクルスを開催。さらに同月、ヴァイオリニスト、マルク・クシュコフとのベートーヴェン：ピアノとヴァイオリンのためのソナタ全曲ツィクルスをヴェルビエ音楽祭、テルアビブ、ツィンタリにてそれぞれ完遂させた。クリストフ・エッセンバッハ、リッカルド・シャイー、アンドリス・ネルソンス、マレク・ヤノフスキ、ラハフ・シャニ、ヴァシリ・ペトレンコといった指揮者たちからの信頼も厚い。2021年11月、ソニークラシカル・インターナショナルと専属録音契約のマルチアルバム契約を締結し、2022年10月には〈モーツァルト：ピアノ・ソナタ全集〉をリリース。このアルバムは、ドイツのクラシック音楽界で最も権威のある賞のひとつ、オーパス・クラシック賞2023にてYoung Artist of the Yearに選出。

## モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団 Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo

モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団は、1856年に「新外国人管弦楽団」としてオーケストラが結成され、1958年には「モンテカルロ国立オペラ管弦楽団」と改称。1980年に「モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団」が正式な名称となり、それ以来、音楽界で国際的にも重要な地位を占めている。その伝統と現代性を融合させる力により、重要な交響曲作品や現代音楽作品の演奏、オペラやダンス音楽においても主導的な役割を果たしている。

モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の歴史は、ヴィクトル・デ・サバタ、ルイ・フレモー、イーゴリ・マルケヴィッチ、ロヴロ・フォン・マタチッチ、ジャン・レヴィ・ジェルメティ、マレク・ヤノフスキ、ヤコフ・クライツベルク、そして2016年から現在まで音楽監督を務める、山田和樹といった偉大な指揮者や音楽監督によって彩られてきた。

2010年秋、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団は「OPMCクラシックス」レーベルを立ち上げた。このレーベルのもとで多くの作品が録音され、音楽専門誌から数々の賞を受賞している。

モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の総裁はハノーファー皇太子妃が務めており、モナコ大公アルベール2世の支援と激励を受けている。またモナコ公国政府および、ソシエテ・デ・バン・ド・メール、フィルハーモニック・オーケストラ連盟友の会のサポートを受けている。



© Sasha Gusov OPMC